

中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

～ しがのふるさと支え合いプロジェクト～

高島市畑地区
参加企業様
大募集!!



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

未来へつなぐバトン

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約65%がこのような地域です。農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。

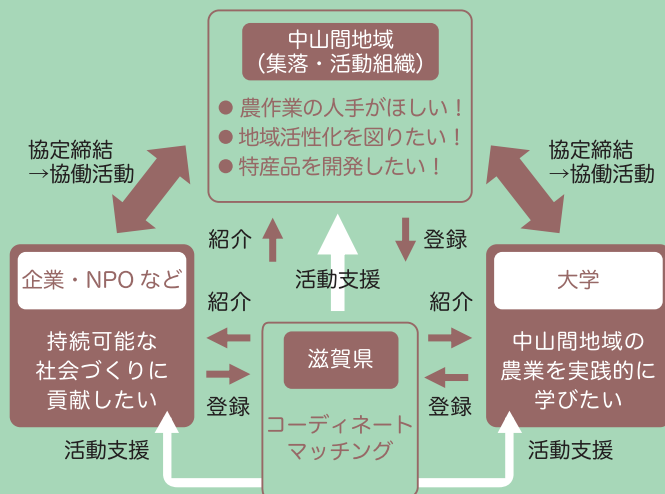
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。

今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつあります。

都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？

都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。

県では、協働活動のコーディネーターや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。

高島市畑地区のせぎなお会は、令和2年に県の「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、棚田米や棚田の農産物の6次産業化に協力してくれる企業・大学等を募集しています。

詳しくは
こちら



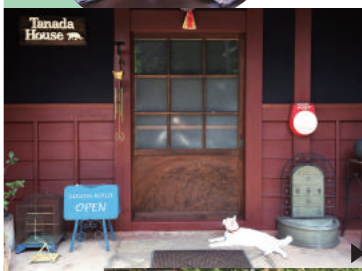


高島市畑地区 せぎなお会の紹介



滋賀県の北部、高島市の畑（はた）地区は名前の通り畑、農業がメインの地区である。しかも、農水省「日本の棚田百選」に認定された滋賀県唯一の農村。高島市の中心部から車で約20分。山道を抜けると、そこには美しい原風景が残されていた。300〜400mの傾斜地。谷間に段々に築かれた約360枚の棚田は、朝夕と表情を変え、四季折々に大きな変化を魅せる。映画やテレビのロケ地としても使われ、カメラマンがよく訪れる絶景スポットだ。棚田は英語で「ライステラス」と呼ばれる。先人たちが山や谷を切り拓き築いたこの棚田は、我々現代人にとっても感動を与え続けるジャパニーズガーデンと言っても過言ではない。脈々と受け継がれてきた棚田を守る知恵と汗の結晶に敬服する。

▶棚田ジャム



▶棚田ハウス



「せぎなお会」

代表 橋本 章一 氏
事務局 橋本 昌子 氏

集落入り口にある農家民宿「棚田ハウス」のオーナーが橋本夫妻。およそ15年前、棚田の魅力に導かれ、「まずは週末から」というプチ移住をスタートさせた。2015年には本格的に移住し棚田で育てたハーブやブルーベリー、季節の果物を原料にした「棚田ジャム」を作り販売している。また2018年には築80年の古民家をセルフリノードで改装して、畑の暮らしを体験できる農家民宿をはじめた。畑の魅力は、「何もないのがいい。そのおかげで空気も景色もいいし、交通の便もある程度よい。」と語る。しかしこのような畑地区においても高齢化が年々進んでいる。地区住民が行う棚田保全活動に夫妻も参加しているが耕作放棄地は年々増加している。そんな中、令和2年4月、夫婦を中心に棚田を保全する有志メンバー「せぎなお会」が発足。耕作放棄地の復元や農産物のブランド化による持続的な地域づくりを目指している。名前の由来は、そのむかし畑地区にあった「せぎなお寺」から命名したという。現在会員は44名。穏やかで親しみのあるご夫妻にたくさんの方が共感し、市内外から有志メンバーがたくさん集まった。初年度の今年度は5枚の棚田に取り組んだ。ひとつひとつの棚田に想いを込め、手植えで米づくりを復活。月1回程度の活動に代わる代わるメンバーがきて作業している。稲作初心者やせぎなお会に、地域の方も暖かく見守ってくれている。余剰苗を提供してくれたり、機械で耕してくれたり、アドバイスもくれるそうだ。「地域の棚田を維持できるよう頑張りたい」と夫の章一さんは語る。



▶せぎなお会のメンバー



新商品開発を共に、 パートナー企業募集。

地域の人々が守ってきた土地を大切に、新しい風を吹き込ませ始めたせぎなお会。今後は棚田米などのブランディング、都市農村交流活動にチャレンジし、耕作する田んぼを増やして、活動を広げていきたい。そのため、棚田米や棚田農産物の商品化と一緒に考えてくれるパートナー企業等を探している。農業を使わずに育てた棚田米以外にも棚田みそや畑漬けなど地域に伝わる食文化もある。パートナーの力を借りて、更なるイノベーションが起こることに期待をしている。

お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

詳しくはこちら

